

メッセージアウトライン ヨハネ19：31~37 「血と水」

「備え日」(31)とは過越の祭りの期間に巡って来る安息日(土曜日)のための備えの日、すなわち金曜日のことである。 過越の祭り→出エジプト12章参照

「その安息日は大いなる日であった」とは過越の祭りと重なっていたからである。律法では死刑にされた者の死体は埋葬されなければならない。→申命記21:22~23 それでユダヤ人たちは翌日が安息日でもあったので、その日のうちに死体を取り降ろして埋葬する処置をピラトに願ったのである。

「すねを折った」(32)のは死を早めるため。しかしイエスはすでに死んでいたのですねを折らなかつた。(33) 徹夜であちこち引き回されての裁判、恐ろしいむち打ち、全人類の罪を背負い、父なる神に見放されることの苦悩、悲しみ。それらすべてのことのゆえにイエスは他の二人の男たちよりも早く死なれたのである。「しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した」(34) これは念には念を入れての確認作業。「するとただちに血と水が出て来た」これは心臓が破裂したことによって赤い血漿部分と透明な血清部分が分離して胸の中に溜まっていて、そこを槍で突いたため、血と水が出て来たように見えたのではないかと考えられる。

「それを目撃した者」(35)とは弟子のヨハネのこと。「その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである」ヨハネが何度も繰り返してこのように言っているのは、“イエスは肉体をとって地上に来られたのではない”などという異端の考えが入る余地のないよとの配慮があつただろう。イエスの体から血と水が出た。すなわちイエスは正真正銘の肉体を持っておられたのだということをヨハネは証ししているのである。

またこの血は人間の罪の贖いが完了したことを意味している。→ヘブル9:22, 10:4

血とともに流れ出た水の意味については→ヨハネ7:37~39

イエスの約束どおり、イエスの血の贖いによって永遠のいのちに至る水、御霊が与えられるのである。この御霊によって、私たちはいのちにあふれた豊かな人生を送ることができるのである。→ガラテヤ5:22

この事が起こったのは「彼の骨は一つも砕かれない。」という聖書のことばが成就するためであった。(36)→詩篇34:20

「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」(37)→ゼカリヤ12:10, 黙示録1:7 これは世の終わりの時に実現すること。

イエスはまことに、神が人となられたお方、肉体を持つ人となってこの世に来られた救い主であった。流れ出た血は罪の贖いの完成のしるし、流れ出た水は、信じる者に与えられる新しいいのちの水、御霊を象徴し、信じる者はこの御霊によって新しく生かされるのである。

私たちはこのすばらしい恵みの事実をもう一度おぼえ、救い主イエス・キリストに心より感謝しつつ、神の栄光に満ちた教会を形成する者となっていきたい。